今こそ, 出木杉くんの話をしよう

理学部 4 回生 前田悠陽

はじめに

今こそ, 出木杉くんの話をしよう. ..... なんだか, ずいぶんと仰々しい題である. しかし, 今年 2022 年の春に一年の延期を経て公開された最新映画『のび太の宇宙小戦争(リトルスターウォーズ) 2021』を観た私たちは, いよいよもって, 彼と向き合わなければならない. それは, 出木杉英才という, 英知と才覚の名の下に生まれ落ちた少年の, 受難と救済の物語である.

出木杉はどこへ消えた?

リメイク作品としての宇宙小戦争(リトルスターウォーズ)を語る前に, 1985 年に公開された映画『のび太の宇宙小戦争(リトルスターウォーズ)』(以後, 1985 年版と呼ぶ) に触れておこう. 武田鉄矢氏が作詞と歌唱を務める, 劇中歌およびエンディング・テーマ『少年期』と合わせて, ファンの間でも評価の高い作品である. さて, 本作を観たことのある方は, 作中に出木杉が登場することは覚えているだろう. ほんのちょっとの失敗[*1]のために, スネ夫とジャイアンに特撮映画の撮影を追い出されたのび太は, ドラえもんとともに, スネ夫たちに負けない映画を撮ろうと意気込む. そのために, まずは出木杉をメンバーに加えようとするのだが, 彼の家を訪ねたときには一足遅く, 出木杉はスネ夫とジャイアンのチームに取られてしまっていた .....

代わりに, のび太たちはしずかちゃんをメンバーに加えるが, プラモをたくさん使って『宇宙大戦争』を撮りたいのび太と, それを「そんなのつまんないわ」と一蹴し, 自身のお人形を使って「夢いっぱいの人形アニメ」を作りたいしずかちゃんとの溝はあまりに深かった. さらに追い打ちをかけるように, のび太は, スネ夫たちが迫力満点の映像を撮影しているところを目撃する. こうして, 映画開始からわずか 10 分ほどの間に示される, のび太と出木杉の残酷な対比は印象的である.

映画の原作となる漫画版『のび太の宇宙小戦争(リトルスターウォーズ)』(以後, 原作と呼ぶ) ではより顕著に, 出木杉の秀才ぶりが描かれている. ロケットを釣竿で吊るし, 爆発の場面では「カンシャク玉やネズミ花火をぶつける」という原始的な手法で撮影していたスネ夫たちに対し, 木から木へピアノ線を張って滑車を使うことでロケットを動かし, 爆発に関してはかんたんな着火装置を作ろうと提案する出木杉の発想と技術には, 観客である私たちも驚くばかりである.

スネ夫の財力と出木杉の非凡な発想が合わさって, ドラえもんという大きなアドバンテージをもってしても敵わないような映像を撮りあげるスネ夫たちに, のび太は「こりゃあ負けそうだぞ。」と, 早くも諦めムードである[*2].

さて, 本作に出木杉が登場するのは, よろしい. それでは, ここでひとつ質問をしよう. 本作に序盤から登場し, わずかな場面において, その優秀さを私たちに印象付ける出木杉は, “いかにして物語から退場するか” 覚えているだろうか?

[*1] のび太談. しかし, 地球を模した撮影セットを突き破って壊すことが, “ほんのちょっとの失敗” かどうかは, 大いに疑問が残る

[*2] ところで剛田くん, きみはいったいどんな貢献を……?

出木杉をさがす旅

本作で, のび太たちはピリカ星の大統領パピと出会い, やがて宇宙 “小” 戦争に巻き込まれてゆく. その目まぐるしい展開のさなかにおいて, 私たち観客は, いつの間にか舞台にいたはずの出木杉の姿を見失い, 彼が舞台袖にはける瞬間さえ思い出すことができない. 物語のダイナミクスに押し流されるようにして, 出木杉の存在は透明化し, 私たちは忘却の彼方に置き去られた彼に目を向けることもない. 物語の構造上, 仕方のないことではあるが, 私はあまりに寂しく, やるせなく思う. だからこそ, 物語に忘れられた出木杉を, 私たちは今一度, 発見してやらなければならない.

改めて, 1985 年版において, 出木杉が物語から退場する瞬間を見直してみよう.

> 順調に撮影を進めるスネ夫, ジャイアン, 出木杉の 3 人. そこにクジラ型の宇宙船が現れ, 熱線で次々に撮影セットを破壊してゆく. ジャイアンの果敢な反撃により宇宙船を撃退するが, スネ夫とジャイアンはのび太たちの仕業だと決めつけ, 怒りのままにのび太の家に突撃する.

これで, 1985 年版における出木杉の出番は終わりである. 突如現れたクジラ型の宇宙船について, 出木杉が何か言及することはなく, その後の動向についても, 一切描かれていない.

そう, 1985 年版では, 出木杉退場の瞬間は明示的に描かれていないのである. 言い換えると, 出木杉は特撮のセットを襲った謎の宇宙船の正体も分からぬまま, 怒りのままに荒らされた庭を飛び出したスネ夫とジャイアンをただ見送った後, そのまま家に帰ったのか, しばらくふたりの帰りを待っていたのか知らないが ..... その時点を以て, 物語から身を引いたのだ. そして, 舞台を去った出木杉に視線を追う者はない. 彼は舞台役者でありながら, あくまで, その場限りの舞台装置に過ぎなかったのだから.

次にてんコミ版を読んでみよう. こちらでは, クジラ型宇宙船の撃退後に, 出木杉のせりふが加わっている.

> スネ夫「わかった！ のび太だ!! あんなすごいラジコンは、ドラえもんしかだせないよ！」
> 出木杉「そうかなあ ·····。それにしてはやり方があくどいと思うけどな ···。」
> スネ夫「ぼくらのビデオをじゃまする気なんだ！」
> ジャイアン「それにちがいない!!」

感情的になるスネ夫とジャイアンとは対照的に, 出木杉はいたって冷静である. 流石は優等生の対応と言ったところだが, これでてんコミ版での出木杉の出番は終わりである. 1985 年版よりはいくぶんか丁寧な退場と言えよう.

さらには, 雑誌掲載版にまで戻ってみよう. 大長編ドラえもんは, 雑誌掲載から単行本の刊行に際して加筆・修正が行われており, その中でも『のび太の宇宙小戦争(リトルスターウォーズ)』は雑誌掲載版と単行本でその内容が大きく異なる.

『のび太の宇宙小戦争(リトルスターウォーズ)』は, 月刊コロコロコミックに 1984 年 8 月から 1985 年 1 月にかけて掲載され, その後, 別冊コロコロコミック Special 1985 年第 3 号に一挙掲載された. 雑誌掲載時では, 本編は全 175 ページである. 対して, てんコミ版は 186 ページと, 10 ページ以上の加筆が行われている. しかし, ここで注意したいのは, 単行本化に際して追加されたせりふや描写がある一方で, 削除されたものもある, ということだ[*3].

[*3] 例えば, 単行本の表紙には, パピを手に載せたドラえもんと, 戦車に乗り敵を目指すのび太, しずか, スネ夫, ロコロコが描かれている. ここにジャイアンが描かれていないことはファンの間でも度々指摘されてきたが, 雑誌掲載版の 1 ページ目には, てんコミの表紙の元となった絵が描かれており, なんとそこには単行本ではロコロコがいた位置に, ちゃんとジャイアンが描かれている. なぜ単行本ではジャイアンがロコロコに差し替えられてしまったのだろうか?

現在, 35 年以上前に発行された別冊コロコロコミックを入手することはむつかしく[*4], 今回は, 主に児童漫画の単行本および雑誌を所蔵している, 大阪府立中央図書館 国際児童文学館に赴き, 雑誌掲載版を閲覧した.

雑誌掲載版では序盤の展開, 例えばパピが自身のロケットをうら山へ回収に行く場面や, スネ夫とジャイアンの殴り込みの場面, スネ夫が夜なべしてラジコンを制作する場面など, 随所に変更点が見られる. それらを細大漏らさず列挙することは容易いが, ここでは出木杉を通して物語を分析するという試みを優先し, この点に絞って見てゆくことにする.

とはいえ, 雑誌版と単行本で出木杉の描写に違いがあるのは, 一点だけである. 単行本における上述のやり取りの次に, 3 人はスネ夫の家を出る.

スネ夫・ジャイアン「やってやろうじゃん。」
出木杉「ぼく けんかはきらいだ。」

スネ夫とジャイアンは怒りに身を任せ, のび太の家へと向かう. 対して出木杉は, 飄々と, スネ夫たちとは逆方向に歩いてゆく. まさに, 決別である. この時点を以て, 出木杉は特撮映画の制作からは離脱し, 以後, 物語には二度と再登場しない.

論点の整理

こうして振り返ってみると, いわゆる旧作における, 出木杉をめぐる問題は, 次の点にあるように思われる.

(1)出木杉は, 映画の撮影セットを襲ったクジラ型宇宙船の正体を知らされることなく物語が終了する
(2)のび太と出木杉が物語の中で直接関わらない, ふたりの間に会話がひと言もない
(3)出木杉の退場に対する説明が不十分である (特に映画版)

「大長編 (映画) ではいつも置いてけぼりの出木杉」という定型句は, もはやファンの間にとどまることなく, 広く一般に浸透しており, インターネット上でもしばしば面白おかしく消費されてきた. 例を出せばきりがないが, 例えば『のび太の宇宙小戦争(リトルスターウォーズ)』から 3 年遡って, 『のび太の大魔境』では, 物語の核心に関わる助言を与えた出木杉に対し, のび太とドラえもんは礼を言うだけで, 冒険には誘わないという圧巻の仲間外れっぷりである. 『のび太の宇宙小戦争(リトルスターウォーズ)』でも, 意図的ではないが, 始めはいつものメンバー (もちろん, ドラえもん, のび太, しずか, スネ夫, ジャイアンのことである) の近くにいた出木杉は, やはり冒険に参加できないのである.

しかし, 出木杉がいつものメンバーに比して, 特段のび太たちと強い友情で結びついていないようには思えない.

今や『ドラえもん』が世に発表されてから半世紀あまりが過ぎた. その間に, 『ドラえもん』を取り巻く社会は目まぐるしく変化し, 『ドラえもん』という作品に社会が求める規範や物語も, 様々な形で変容を迫られてきた. 国民的アニメとして世に定着してゆくにつれて, 純粋な生活ギャグとして存続することはいよいよむつかしくなり, 個々のキャラクターも新たな形で消費されるようになった.

ドラえもんに子育ての在り方を探し, のび太に人生の指針を見出し, しずかから理想の女性像を学び, スネ夫の処世術を真似し, ジャイアニズムを継承する者たち ..... 私の本棚にも, のび太の緩やかで, しかし芯の通った生き方から人生訓を引き出す本が収められている.

[*4] ドラえもん作中では, 「むつかしい」「おっつかない」という表現が度々登場する. 現在ではあまり使われない表現だが, 個人的に気に入っており, 普段から使用している

こうして, のび太たちが移りゆく社会の要請に翻弄されるなかで, 出木杉だけが, その知名度に反して, 奇妙にもそうした興味から逃れられてきた. その代わり, 出木杉は冒険に同行できない不遇を受け入れ, あくまでのび太たちのよき友人であり, 時には助言を与える者として存在することを選んだ.

出木杉の受難は, 時代が進み, 藤子・F・不二雄先生の亡きあと, 毎週のように新作エピソードが放送され, 春には新作映画が公開される今もなお, 大きくその構造を変えてはいない.

..... それも, 2022 年 3 月 4 日を迎えるまでの話である.

そして, 物語は現代へ

ずいぶんと長い前置きとなったが, 1985 年版の映画, 単行本, 雑誌掲載版の内容を踏まえて, いよいよ 2022 年に公開された『のび太の宇宙小戦争(リトルスターウォーズ) 2021』(以後, 2022 年版と呼ぶ) を紐解いてゆこう.

2022 年版では, 1985 年版, 単行本, 雑誌掲載版いずれとも, 序盤の展開が大きく異なる. まず第一に, 特撮映画の撮影に, はじめから出木杉が参加していることは大きい. のび太は出木杉をスネ夫たちに取られることなく, そのためしずかを誘って新たに映画を作ることもなく, うら山で謎の宇宙船を拾うこともない. パピの宇宙船はうら山ではなく, スネ夫の家の庭に落ちている設定へと変更され, 序盤はここで登場人物が動き回る. こうして, 映画開始から 20 分間ほどは, 原作とは大きく異なる物語が展開されてゆく.

しつこいようだが, “出木杉が始めから物語に参加している” ことは, 極めて象徴的である. 旧作のいずれとも異なる 2022 年版の序盤の展開は, 今にして思えば, 出木杉という存在について, より重大な問題提起をしていたように思えてならない.

それでは, 本作では出木杉はどのように物語から退場するのだろうか?

旧作で出木杉が物語から退場し, その後スネ夫とジャイアンがのび太の家に殴り込みに行く場面は, 2022 年版では「ドラえもんとのび太が撮影に来ないから, しびれを切らして呼びに来た」という場面に変更されている. そこでは, 次のようなせりふが追加されている.

> スネ夫「出木杉が塾の合宿でぬけた今、ドラえもんは大きな戦力なんだ！」

すなわち, 出木杉は舞台を映すカメラの裏で退場したわけでも, 自分から撮影を抜けたわけでもなく, 塾の合宿というやむにやまれぬ事情で離脱したことになっているのである. これは旧作からの大きな変更点である.

そしてなにより, 出木杉はまだ物語が平和なうちに退場した, という点は強調しておく必要がある. 旧作では, 物語はクジラ型宇宙船の襲来を転換点として, のび太たちは遥か遠方の異星での戦争に巻き込まれてゆく. そして, その転換点に, 出木杉は (その正体は分からずじまいとはいえ) 居合わせているのである.

対して 2022 年版では, 出木杉はなんということはなく特撮の撮影に参加し, なんのトラブルもなく撮影から抜けたことになる. 私の想像だが, 出木杉は「ぼくは明日から塾の合宿に行かないといけないんだ. 撮影には参加できないけれど, 完成を楽しみにしているよ」などと言ったのかもしれない. つまるところ, 出木杉にとってはこれは日常の範疇であり, そこにはのび太たちがこの先巻き込まれる危機の予兆どころか, わずかな伏線すらない[*5].

[*5] のび太がスネ夫の家の庭で謎のロケットを拾ったことは, 一応の伏線と言えるかもしれない. そのとき, 出木杉はのび太が拾ったロケットを見て, 何を思ったのだろう?

1985 年版, 単行本, 雑誌掲載版におけるひとつの問題, 「出木杉は, 映画の撮影セットを襲ったクジラ型宇宙船の正体を知らされることなく物語が終了する」は, そもそも出木杉の退場を宇宙船の襲来より先にしたことで解決されたのである.

なお, クジラ型宇宙船の襲来シーンは, 冒険に同行しない出木杉に代わって, のび太, ドラえもん, パピの 3 人を加えることで, しずかちゃんを除いて, いつものメンバーが物語の転換点に立ち会う形に変更された. こうして, 2022 年版では, 出木杉がいなくなることの説明がなされた上で, ごく自然に彼は舞台から姿を消すこととなった.

そして, 多少の形は違えど, 映画の撮影から抜けた出木杉は, それまでの 1985 年版, 単行本, 雑誌掲載版と同じように, もう物語には再登場しないと思っていた. そのため, 本作のクレジット前に挿入された場面は, 大きな驚きを以て迎えられた. 映画館で本編を観ていた私は, 2022 年版で新たに付け加えられた, ほんの 30 秒ほどのシーンに, 気付けば心を奪われていたのだった.

ピリカ星の危機を救い, 地球へと帰ってきたのび太たち. それから数日後か, 数週間後か, 少なくとも, まだ日差しは強く照りつけるある日, スネ夫の家では特撮大巨編『宇宙大戦争』の試写会が行われていた. 参加したメンバーは, ドラえもん, のび太, しずか, スネ夫, ジャイアン, そして, 出木杉.
プロジェクタとスクリーンが用意されているのも, 流石はスネ夫の家である. スクリーンには, リングを携えたピリカ星の姿と, その上に「終」の文字が大きく映し出されている.
試写が終わり, 笑顔で拍手するのび太たちの横で, しかし出木杉は驚きのあまり口を開けたまま, スクリーンにくぎ付けになっている. ややあって, 「すごいよこれ ·····」と, ため息をつく. どうやって撮ったのと尋ねる出木杉に, のび太たちは身を乗り出して, 興奮気味に答える.

「聞きたい?」

そして, 物語は幕を閉じ, クレジットが流れ始める.

このシーンを, もう少し丁寧に見ていこう. 本編の中盤, ロケットでピリカ星に向かうシーンで, 宇宙から見たピリカ星の姿が登場する. リングを持ち, 緑と赤茶の土地, そして心もとない量の海に覆われた惑星である. それを踏まえると, 『宇宙大戦争』のスクリーンに映し出されているのは, 間違いなくピリカ星である. つまり, 元々はピリカ星など関係なく撮影が始まった『宇宙大戦争』は, 最終的にはピリカの救世主となったのび太たちの英雄譚として完成したのだと解釈できる.

旧作では, クジラ型宇宙船の襲撃により中断となっていた特撮映画撮影が, その後再開されたのか, 結局頓挫して自然消滅してしまったのか明かされることはなかった. それが, 2022 年版ではちゃんと撮影が再開され, 試写会にまでこぎつけていることが明らかになっている.

そして, 私たちが最も注目すべきことだが, 試写会には, スクリーンから最も近い席に, 出木杉の姿がある. つまり, 出木杉はスネ夫, ジャイアンと決別などしておらず, 塾の合宿で “一時的に” 離脱しただけなのだから, どこかで物語に復帰しなくてはならない. それに対する答えが, 最後に追加されたシーンである.

この “一時的な離脱” は, 自身は物語から一度降りると同時に, 自分なしで動き出す物語を見送り, その帰りを待つことをも意味する.

のび太たちは大長編のたびに, 過去, 未来, ジャングルの奥地, 南極, 宇宙 ····· 時間も空間も超えて, 大冒険へと出発してゆく. それでも, 最終的には冒険から引き返して, 平和で, 代わり映えのしない日常へ ..... そ

して, いつかは家に帰らなくてはならない. 出木杉は, のび太たちの冒険には, 決して同行しない. 時にのび太たちに知恵を与え, 彼らを諫めるが, しかし出木杉は退屈な日常に留まり続ける. その意味で, 出木杉は冒険に出たのび太たちが帰るべき場所の象徴と言えるだろう.

もし, のび太たちが帰るべき場所を忘れてしまったら? 2022 年版のラストは、まさにそのことを象徴しているように思えてならない. 出来杉はのび太たちの帰りを待ち、そして土産話に耳を傾ける、そういう役割だったのだから.

大長編において, 出木杉がのび太たちの冒険に同行しないこと……それは, 「優秀すぎるがゆえに, 他のキャラクターのひらめきを奪ってしまう出木杉は, 作劇上冒険に同行できない」というメタ的な制約による問題を抱えているが, 『のび太の宇宙小戦争(リトルスターウォーズ) 2021』で, その答えは概ね提示されたように思う.

なにより, 本作は出木杉をのび太たちの不可分な仲間として, “冒険に同行しない仲間” をいかに描くか, という問題に正面から向き合った作品と言えるだろう.

もうひとつの「出木杉をさがす旅」

ここで, 藤子・F・不二雄先生の『ドラえもん』では触れられない, “冒険に同行しない者たち” の視点を描いた作品として, 瀬名秀明氏の小説版ドラえもん『のび太と鉄人兵団』を取り上げておこう. 2011 年のリメイク映画公開に合わせて発表された本作では, 原作を土台としつつ, “のび太たちが不在となった元の世界で起きていたこと” が新たに描かれている.

『ドラえもん』には, 大冒険により家を空けたのび太たちが, 最終的にタイムマシンで出発の直後に戻る場面がしばしば登場する. 『のび太と鉄人兵団』原作でも, 具体的にタイムマシンを使って過去に戻った描写はないものの, 鏡面世界でのび太たちは数日を過ごしており, そのまま元の世界に帰れば, 児童の集団失踪という大事件である.

それを, 瀬名秀明氏の『のび太と鉄人兵団』では, 実際に元の世界でのび太たちの失踪が大事件に発展するさまを克明に描いている.

『のび太と鉄人兵団』では, ロボットの襲来を知ったのび太たちがママに掛け合っても「テレビやマンガみすぎるのよね。しまいにはお話と現実がごっちゃになっちゃって ·····。」と呆れられ, 110 番や自衛隊, 総理大臣と電話を掛けるも誰も信じてくれない. これは, 原作では「世界の危機にのび太たち子どもだけで立ち向かうしかない」という緊迫さの表現であると同時に, のび太たち “冒険に出る者” と, のび太のママをはじめとした “冒険に同行しない者” との深い断絶を描くものでもある.

それが, 瀬名秀明氏の『のび太と鉄人兵団』では, 原作には登場しない, ある藤子作品キャラが, この “冒険に出る者” と “冒険に同行しない者” を繋ぐ役割を果たしている. 未読の方は, この機会に是非手に取って読んでみてほしい.

なお, 瀬名秀明氏は, 『のび太の月面探査記』の脚本を務めた辻村深月氏との対談「『映画ドラえもん のび太の宇宙小戦争』公開記念スペシャル対談 ふたりの宇宙小戦争」において, 出木杉について, 次のように触れている.

> 瀬名「そうそう、最後の最後で、出木杉くんが出てくるのもよかった！ いつも冒険に置いてけぼりなんだけど、今回は最後にみんなと一緒にいる場面があったので、もしかして監督と脚本家の思いやりだったのかなあ。」

瀬名秀明氏のこの発言を, 彼が 10 年前に著した『のび太と鉄人兵団』を踏まえて読むと, 特に大長編におけ

る “不遇な置いてけぼり” としての出木杉に, 全く新しい, 希望に満ちた側面を見出すことができよう.

『のび太の宇宙小戦争(リトルスターウォーズ) 2021』で追加された出木杉のシーン ..... それが, 「のび太たちが, 帰るべき場所を忘れなかった」ことの示唆になっていたのなら ..... 私は, 冒険を繰り広げた英雄だけでなく, 英雄の帰りを待ち続けた出木杉をも愛そう.

おわりに

改めて, この文章の題は「今こそ, 出木杉くんの話をしよう」である. また, これは出木杉の “受難と救済の物語” であるとはじめに述べた. 踏まえて, 最終的にどういう着地点に持ってゆくか, という点について, しかし既にこの「おわりに」以外を書き終えた今でも, 私は何か確定的なことを結論する気にはならなかった. 出木杉が『のび太の宇宙小戦争(リトルスターウォーズ) 2021』を以て本当に救いを提示されたのかには大いに疑問が残るし, 彼に対する救いは, あるいはもっと以前に提示されていた可能性もある.

然もあらばあれ, ひとつだけ言えることがあるとすれば ..... 全ての解釈は, 私たちに委ねられたということであろう. だからこそ, 私たちは注意深く作品を観察する. キャラクターの挙動を追い, 紡がれる言葉をひとつひとつ拾い上げ, その背後に潜む文脈の空白を埋めようと試みる. 時には, 原作者が一度発表してから手を入れ再発表したものがあれば, 初出を参照し, 比較, 分析する. 作品においては, 書かれているものこそが全てである. 書かれているものを, 丁寧に, 精確に読み解く. その結果として, ひとつの解釈が生まれる.

しかし, 私たちはしばしば, 結論ありきで物事を語りがちである. 私自身, 「出木杉がのび太たちの人間関係において不可分であってほしい」という願望から, ついぞ脱出することができなかったように思う. それゆえに, 私はこれ以上確定的なことを述べるつもりはない. いつか, 未来の私が, もしくは別の誰かが ..... 私の不完全で独りよがりな解釈を埋めてくれることを願う.